

日本の麦

－拡大し続ける市場の徹底分析－

民間流通制度導入後の国内産麦の
フードシステムの変容に関する研究（大麦編）

11月27日 水 13時30分～17時

農林水産政策研究所セミナー室
東京都千代田区霞が関3-1-1 中央合同庁舎第4号館9階

お問合せ

農林水産政策研究所 TEL:03-6737-9012 / FAX:03-6737-9600
<http://www.maff.go.jp/primaff/>



Case Studies 1

Presenter



吉田 行郷（農林水産政策研究所 企画広報室長）

消費者の健康志向の高まりの中で、大麦に豊富に含まれているβ-グルカン（水溶性食物繊維）が注目され、国内産大麦に再び脚光が当たり、新たな需要も生まれてきています。特に近年は、もち性大麦に対する需要の急増、大麦粉を使用した製品の開発・発売、グラノーラでの国内産大麦を使用した製品の開発・発売等国内産大麦の需給に影響を与える新たな動きが次々に出てきていますが、国内産大麦の産地が、こうした動きに十分な対応ができず、国内産小麦同様に、国内産大麦についても需要が供給を上回る逆ミスマッチ状態が続いています。こうした状況となった要因を、主産地ごとの近年の新たな動きも踏まえて、我が国の大麦のフードシステムにおける各主産地産の大麦の位置付けを浮き彫りにしながら、明らかにします。そして、今後、国内産大麦の需要を更に拡大・定着していくために取り組むべき中長期的な課題について考察します。

Case Studies 2

Presenter

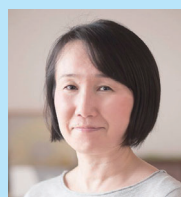


上武 裕 氏（株式会社大麦工房ロア 専務取締役）

自社で生産している食品における国内産大麦の使用状況をご紹介いただくとともに、今後の国内産大麦の粉食用途の可能性と課題について考察していただきます。

Case Studies 3

Presenter



林 恵子 氏（株式会社はくばく 購買部マネージャー）

自社で生産している食品における国内産大麦の使用状況をご紹介いただくとともに、急拡大したもち性大麦に対する需要の今後の見通しと国内産拡大に向けた課題について考察していただきます。

Case Studies 4

Presenter



浦松 亮輔 氏（農研機構 食農ビジネス推進センターコーディネーター）

国内産大麦の新たな用途の拡大状況について解説していただくとともに、それら用途の今後の可能性、国内産大麦の対応方向について考察していただきます。

Discussion

今後の国内産大麦の需要拡大の可能性と課題について報告者が討論を行います。